

令和4年9月30日発行

<http://setagaya5.boy.jp/scout/>



発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

70周年記念キャンポリー特別号

ビーバー隊 | 発団 70周年記念キャンポリー

カブ隊 | 発団 70周年記念キャンポリー

ボーイ隊 | 発団 70周年記念キャンポリー

ベンチャー隊 | 発団 70周年記念キャンポリー

ローバー隊 | 精神的代謝



特別寄稿

世田谷第5団OB

清水優一 | 18NSJ 参加報告@JR 東日本大崎運輸区

2022年8月6日（土）～7日（日）

【発団 70 周年記念キャンポリー】

ビーバー隊 隊長

草嶋 隆行

5年ぶりの団行事としてキャンポリーに参加しました。私自身は運営側に回ったため、実はあまり現場を見れていませんが、運営視点で書きたいと思います。

前回と同様、ビーバー隊については保護者同伴で現地集合現地解散としましたので、土曜の昼頃に一台、一台集まってくる各ご家庭をお迎えします。基本的に2世帯で同じロッジに同宿となりますので、皆さんも正直不安そうな様子も見せつつも、集合場所をお伝えしてそれまでは休憩いただきます。



いよいよ、全体オープニングとなり、縦割り混成班に分かれてセレモニー後に、水鉄砲ゲームに入ります。無事にプログラムが始まったことを確認した後に私自身は現場を離れ、緊急対応用として待機に入りました。怪我などの緊急時に備えたトランシーバーの呼び出しが鳴らないことを祈りつつも、無事に時間が過ぎ、ようやく夕食と引き続きの営火です。前週や当日の全体準備やローバーの活躍もあり、営火も無事に始まったのを見届けて、再び待機に入ります。営火は途中でプチ行方不明騒ぎも起きるくらいの盛り上がりを見せ、初日は無事に終わりました。





二日目は、朝食後に敷地内での宝探しとその後の工作がメインです。各班に分かれてのプログラムになるため、安全管理や時間管理が初日と比べて難しくなりますので、運営側としてはやや緊張が高まります。一方、昼食のバーベキューの仕込みも同時に始まり、かなり忙しい午前中となりましたが何とか無事に予定通り進行了ました。また、この時間帯で、付き添いの保護者の方とも普段出来ないくらいのお話を色々させていただき、保護者の方々もお疲れの中でも楽しそうにされているのが印象的でした。



無事に終了セレモニーも終わり、各隊解散セレモニーにてこの二日間で初めてスカウト全員と対峙しましたが、みんなの表情からもとても楽しい二日間だったことが伺えました。

コロナのピークに重なった時期でのキャンポリーとなったため、最悪の事態について様々な検討と準備も急に重ねた部分もありましたが、コロナも含めて大きな事故もなく、無事に終わったのは本当に何よりでした。



2022年8月6日（土）～7日（日）

【発団 70 周年記念キャンポリー】

カブ隊 隊長

土屋 彰男

5年ぶりの団キャンポリー。

コロナの影響もあって企画が出遅れ、厳しい暑さが予想される御前山での実施となりましたが、たまたま涼しくて、幸運でした。

準備期間が短い中、プログラムの企画で RS、VS が大いにがんばってくれたと思います。水鉄砲、営火、宝探しなど、スカウトは大いに楽しんでいました。BS、CS、BVS からなる班の数を、今回は、カブ隊の4組を基本とする4班としないで6班としたことは、カブ隊にとって刺激となりました。ただ、営火のスタンプの取り組み方については工夫することが望まれます。

キャンポリーの目玉BBQ、コロナ対応で2交代制となったものの、とてもよかった。牛肉の解体実演、焼き立てのサーロインのおいしかったこと、串差しもボリュームいっぱい。不愛想な炉をおしゃれな食卓に変えた手作りの天板、70周年記念ロゴシールを張ったコップなど、細かなしつらいが雰囲気盛り上げていました。スカウトたちも大満足。

準備、運営に尽力された関係者の苦勞が報われるキャンポリーとなったと思います。

そして、今回の反省点をしっかりまとめ、次回に活かしましょう。

カブ隊 副長

三園 真也

連日の酷暑や前日までの大雨などの天候、コロナ対応の為のプログラムの変更。開催直前まで不安に思っていた事が全て良い方に展開したのは本当に奇跡かと思います。

全てのスカウトが不器用ながら前向きに取り組む姿勢に感動しました。



カブ隊 副長

保科 哲也

キャンポリーでは、カブ隊を卒業したボーイ・ベンチャー・ローバースカウト達と会う事ができて、懐かしく、成長した姿を見て頼もしく感じました。

私の考えでは、ボーイスカウト運動は、スカウト達が自分の得意を見つけたり、スカウト・指導者も、プログラムの計画・実施・反省の中で生き抜く力を自分の中で発見する場所だと考えています。70周年世田谷5団キャンポリーは、その集大成の場所でした。

今回は実行委員会、各隊指導者達で議論・会議を重ねて実施されました。

私は心の中で、キャンポリーに関わったすべての人に、幸あれと叫んでいます。



カブ隊 副長

青木 由美

実行委員の皆様、企画チームのスカウトたちのおかげで、素晴らしいキャンポリーとなりました。コロナ対策で安全面をギリギリまでの検討して下さったことで、安心して活動が出来たことに感謝しています。

何よりついでの間までカブスカウトだった、BS たちの成長には感動しました。



カブ隊 副長

本間 千香

5年ぶりのキャンポリー。

前は副長として只々参加して楽しんでいましたが、今年は実行委員になりスタッフ運営に関わらせていただきました。

過去を振り返ると昨年の12月からの下見に始まり約8か月の計画。会議、何回やったか数えきれないくらいです。7月の後半になり、感染者数が増え、やはり中止？の不安な雰囲気がありました。なんとか開催することができました。

ホントにお天気にも恵まれ、コロナ禍、熱中症をすぐ気にしていましたがスカウトたちは久々の舎営にイキキとしていました。久々すぎて体力がついていけないスカウトもいましたが、5団スカウトが集まり、本当に素敵なキャンポリーが開催できてホッとしています。

今回私は食事担当で、過去に経験のある副長さんの支えがあり、食に対しての心くばりやもてなしがすごく勉強になりました。美味しそうに食べている姿をみて、大家族の母ちゃんになった気分でしたね！只々嬉しいの一言！

こんな素敵な仲間がいることに感謝し、これからもたくさんさんの活動に参加し、成長していきましょう。

5年後は今のクマは高校生になり、運営している側になっています。また、そんな姿を想像しながら楽しみにしたいと思います。



カブ隊 副長

大西 美由紀

5年に一度のキャンポリー。ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャー、ローバーの5隊が集まるお祭り聞き、ワクワクしていました。少し前までカブ隊にいたボーイ隊のスカウトに久しぶりに会うと、照れながらもきちんと挨拶してくれて皆の成長を感じ、母親の様に嬉しい気持ちになりました。

食事担当でプログラムにはほとんど参加出来ませんが、お腹を空かせたスカウト達が喜んで食べてくれて、頑張った甲斐があり良かったです。

このような貴重な機会に親子で参加出来、良い思い出になりました。ありがとうございました。



カブ隊 1組 DL 代行・副長

渋谷 真紀子

青班を担当させていただきました。団全体の縦割りのグループでラリーや営火などを行い、またカブ隊とは違った雰囲気の中での活動に、私自身がすっかり楽しんでしまいました。

最初はみんな緊張気味でしたが、一緒に活動を共にするうちにだんだんと打ち解けてきて、BVS～RSまで年齢問わずの交流があり、5団全体が一つの仲間となったように感じました。

素晴らしい企画をありがとうございました！

2組 DL

杉山 明日香

コロナの影響もあり、なかなか集まれなかった BS との交流が今回できたのですが、CS たちは多少の緊張感もあったのかいつもと違った態度になっているのが微笑ましかったです。正直にいうと、もう少し BS の中学生たちが企画ごとに CS を引っ張ってってくればよかったのにと残念です。

今後の合同活動で彼らと再会することを楽しみにしたいと思います。



3組 DL

猪原 潤

異年齢での班活動でしたが、BS は BVS の面倒をよく見ており、CS は BS をリスペクトしながら活動ができていたと思います。

また、一日半という限られた時間の中に、様々なプログラムを組み込むのは大変だったのではないかと思います。VS/RS、他のスタッフの皆さんお疲れ様でした。

Fire!!

4組 DL

西山 武秀

ローバーからビーバーまでが一斉に集い、暗がりに浮かぶ大勢のスカウトたちと、天までこがすキャンプファイヤーが圧巻の光景でした。

CP ラリーでは班付きリーダーとして同行しました。ボーイ隊はピュアさを残しながらもとてもシッカリとしており、思わずカブ隊の子供たちの成長した姿が想起され、期待が込み上げてきました。

企画運営するベンチャー隊やローバー隊は、学生ながらもあれだけの大きな規模のイベントを成し遂げ、優しく後輩達を導いていたことが立派でした。

より良き社会人を育成する、ボーイスカウト活動の魅力が存分に詰まったキャンポリーでした。



1組 くま



水鉄砲が楽しかったです。CP ラリーで、きつねのしっぽとりをやりたいけど、時間がなくてできませんでした。バーベキューをやって、美味しいお肉がたべれてうれしかったです。

キャンポリーの閉村式で、チームで最優秀賞がとれ、ネッチリングを取れてうれしかったです。

1組 くま



ボーイスカウトの人達は下級生への接し方が優しく、準備や整頓ができていてすごいなと思いました。キャンポリーの活動内容も楽しかったです。

またモザイクアートを作ったときには、セミカオスを作って楽しかったです。



1組 うさぎ



ボーイのお兄さんとなかよくかつどうできてうれしかったです。



2組 くま



キャンポリー初日は、相手の頭の上にあるポイを水鉄砲で破くことがおもしろかった。また、営火のスタンプではいろいろな小道具を作り、役割分担して上手くできた。営火では色々な歌を歌えて楽しかった。

2日目はCPラリーで、江戸時代の寛永通宝の硬貨がもらえてうれしかった。それを使ったモザイクアートでは、「自然」をテーマに道具を工夫して作った。そして昼食では、サーロインを実際に調理している姿が見られてうれしかった。地元の米を使ったおにぎりなども食べた。しかし、そうめんをたくさん食べてしまったので、他のをもっと食べればよかった。

結果はふつうだったけれど、楽しかった！



2組 くま



ボーイの人たちと、初めて一緒に活動ができました。僕たちカブやビーバーのみんなに優しく声をかけてくれて、僕たちの意見も聞いてくれました。みんなでまとまって活動ができるようになってくれていると感じました。

僕もボーイになったら同じように、周りを気にかけてあげられるようになります。

2組 うさぎ



僕の心に一番残ったのは、三日目の昼食のBBQです。解体実演でサーロインステーキを目の前で焼いてくれたのを初めて見たので凄かったです。とても美味しかったので、また外でみんなとBBQをしたいです。



2組 うさぎ



ぼくはボーイたいやビーバーたいなどのみんなと活動して、とくに水でつぼうが楽しかったです。負けてしまう事が多かったので、次は勝ちたいと思いました。



3組 くま



水鉄砲ゲームでは、負けたけど作戦を考えたりするのが楽しかったです。

名前は覚えてないけど少し憧れる先輩もできたとし、75周年の時には企画を考える側で出たいなと思いました。とてもいい経験になりました。

3組 くま



キャンプファイヤーや宝探しが楽しかった。

3組 うさぎ



キャンポリーではみどり班が 1 位になりました。賞品はカラフルなひもで作ったネッチリングでした。

キャンプファイヤーははじめてで、思ったよりあつくなかったです。



3組 うさぎ



水鉄砲対決やスタンプがうまくいったからうれしかったです。あと BBQ の牛肉がすごくおいしかったです。



4組 くま



キャンポリーでは、ボーイ隊たちは冷静で、班長はあわてないすごいなと思いました。同じ組に 5 年生が僕しかいなかったのでも、どうやったら組長になれるかわからなかったです。でも、冷静であわてず、ふざけないでやったらしっかりした組長になれるとわかりました。だから次の一泊舎営では、組長らしく頑張りたいです。



4組 しか



キャンポリーでげきの内容を考えるのが楽しかったです。良いげきが出来ました。

一つ一つのゲームでそこそこ良い成績を取る事ができて、最優秀組 3 位を取れてうれしかったです。



4組 うさぎ



チェックポイントをいっぱい回った中でも特に楽しかったのがきつねのしっぽ取りです。鬼は足が早くて、捕まってしまったけれど、とても楽しかったです。

4組 うさぎ



班のお兄さん達と活動して楽しかったです。牛肉の塊が薄く小さくなっていくのにビックリしました。水鉄砲やキャンプファイヤーは、楽しかったですが、肝試しは本当に怖いです。

2022年8月6日(土)～7日(日)

【発団 70 周年記念キャンプ】

ボーイ隊 隊長

保科 潔

今回、私の希望する長期キャンプを実現できた事は大変うれしく思います。また、ボーイ隊リーダーの皆様のご協力に感謝するとともに、横山団委員長のご英断が今回のプロジェクトの成功を導き出したと思います。



コロナ感染症に対するリーダーの考え方も全く同じではありません。真摯な議論を経て計画を実行する事ができ、良かったと思います。やはり事前の一泊訓練キャンプを行った事が、スカウトとリーダーの自信になりました。



スカウト、保護者、リーダーの皆様。

これから行く道は、決して平坦な舗装された道では有りません。でこぼこ道です。誰かが直してくれても、やがて元のでこぼこ道になります。私たちは先輩方の 70 年の伝統と革新を引き継ぎ、乗り越えて行きたいと思いをします。



ボーイ隊 副長

神田 雅代

「ボーイ隊 夏キャンプの奇跡」

今夏の、5泊6日キャンプはご存知の通り、4年に1回の日本ジャンボリーと、5年に1回の世田谷第5団のキャンボリーが重なりました。しかも、日本連盟がコロナ禍での開催のため、自団で実施するキャンプを「ジャンボリーサマー」と名付け、ジャンボリーとしてみなしてくれるという奇跡のもとでの開催でした。

実は、他にも、いくつかの奇跡が重なり、大成功に終わることができたのです。

奇跡その1

6月からの記録的猛暑から、夏のピークの暑さを想像するに戦々恐々。夏キャンプは長野や標高の高いところなどでの実施が常のところ、今回はキャンボリーを優先し、未知なる茨城県。結果、最高でも32℃という奇跡。

雨も2日目は降ったものの大雨にはならず、大型構造物の信号塔の作製に成功。結局、用意していたOS1が大量に余るといふ幸いでした。

奇跡その2

6日間、30人を毎食、食わそうと思ったら、食材の調達のために、毎日毎日、里のスーパーまで往復1時間かけて買い出しに行かなければなりません。覚悟を決めていたら、30分ほど行ったところにある、「イオン常陸大宮店」の全面的協力を得ました。毎日2回、注文した品を、必要温度で、手数料なしで運んでくれるというサポート体制を組んでくれました。これは、イオンで教育の仕事をしている私の縁からでした。

おまけにキャンボリーでは、サーロイン肉塊の解体ショー



までやってもらって、キャンボリーのバーベキューがおおいに盛り上がりました。

奇跡その3

コロナ感染者が増えて、実施するのか中止にするのか？実は何回も委員会で議論して、悪い想像は胃が痛くなるほどしました。何せ、今まで誰も経験しなかったわけですから…。難しい決断でした。

そんな中で、実施に踏み切った今回のキャンボリーの結果は奇跡的でした。途中、腹痛などで体調を崩したスカウトはいたものの、リタイアはゼロ。無事に5泊6日過ごすことができました。

奇跡その4

さらりとこのキャンプをやれているように見えるでしょう。こんなこと当たり前ではありません。

たちかまどが3個、家型テントが3張り、タープが4張り、共有ドームテントが2張り、個人テントは30張り。。

このようなコンディションは、5団としては随分と久しぶり。おそらく30年ぶりぐらいの状況が整えられたのではないかと思います。

このような奇跡が重なり、今回のキャンプが実現したわけです。結局のところ、場があって、資金があって、道具があって、人がいて、そして技術がある。全部揃って夢が叶いました。

歴代のスカウト含めた、多くのスカウト達、ご家庭の理解、リーダーの奉仕、団や育成会のバックアップと指導、こういった多くの人々の力で成し遂げたことですね。

振り返ってみて、改めて、感動する次第です。私の人生にとっても、とても貴重な思い出を作ってもらいました…
ありがとうみんな！



ボーイ隊 副長

河田 浩二郎

日本スカウトジャンボリー。

4年に1度のスカウトたちの祭典であり、ボーイ隊在籍期間（小6～中3）としては人生唯一の機会、憧れのイベントである。第18回日本スカウトジャンボリーは、コロナ禍による史上初の全国分散開催。世田谷第5団ボーイ隊は、70周年記念キャンボリーと合わせて、5泊6日のジャンボリーサマーキャンプ自団開催という稀有の機会に恵まれた。

ボーイスカウトの野営（キャンプ）は、その歴史と伝統の中で研ぎ澄まされた野営スタイル、すなわち「スカウト・キャンプ」を基本とする。

キャンプ場に到着すると、班長・次長（グリーン・バー）の指示のもと、自分たちが生活する場の設計＝サイトデザインの後、設営。家型テントと食堂フライを建て、立ちかまどを組み上げ、土を盛る。ある班員は薪拾い、ある班員は水タンク、火おこし、野外料理と全員が役割を果たし、力を合わせて班サイトを構築・運営するのだ。



班サイトは、グリーン・バーのリーダーシップと班員のチームワーク、創意工夫によって日々改善されていく。薪の拾い方が上手なスカウト、火おこしが得意なスカウト、調理が上手なスカウト、班員それぞれの特徴を掴みながら、後輩スカウトに技能を教え、指示を出すグリーン・バー。当初、準備が間に合わなかった朝の点検も、数日後にはリーダーの到着を整列して待機。就寝時



の火や薪、靴の扱いなども失敗と改善を繰り返しながら体得。野営生活がまるで一つの物語のように進行し、スカウトたちが日に日にたくましく成長するスカウト・キャンプは、ボーイスカウト活動の真骨頂の一つだろう。



第18回日本スカウトジャンボリーでは、「ジャンボリー日本一プログラム」として、スカウト達の好奇心と挑戦心をくすぐる3種類のゲーム（班旗立て・火起こし・手旗信号リレー）を行い、全国各地のスカウト達とスカウティング技能を競い合った。納得のいく結果が出せるまで何度も挑戦する姿を間近に見て、スカウト達の無限の可能性と情熱を眩しく感じ、我々指導者も大



きな刺激をもらった。また、5 団独自の隊プログラムとして大型建造物「三脚信号塔」の建築にも挑戦。雨の降る中、自分たちの身長よりも長い竹材を縄で組み上げていくプログラムは非常に難易度が高く、さすがに無理か、と断念も頭をよぎったが、スカウト達は決してあきらめず約 4 メートルの信号塔を完成。若きスカウト達の無尽蔵のエネルギーを感じた瞬間だった。

キャンポリープログラム、キャンプファイヤー、インディアンかくれんぼなど、厳しくも楽しいキャンプ生活はあっという間に過ぎ、とうとう撤営。「キャンプの痕跡を一切残さず、残すものは感謝のみ。」を胸に、スカウト達は大きな成長の足跡を残し、一生の思い出となる 5 泊 6 日のキャンポリー兼日本スカウトジャンボリーをやり遂げたのだった。

夏をともに過ごしたスカウト達、そして、キャンポリー・ジャンボリーを計画・運営いただいた団委員会、育成会を始めとする関係全ての皆様に心から感謝したい。



オットセイ班

自分は、人生初の 5 泊以上のキャンプでした。最初は 1 日をすごく長く感じたり、すぐ疲れたりしてしまって、早く帰りたいなと思っていました。でも、日本ジャンボリーのプログラムで結果を残すことができたり、ジャンボリーの活動でも楽しく、きちんと班長として班員をまとめられたりして、だんだん泊まるごとに楽しくなっていて、とても、楽しくキャンプ生活を送れたなと思いました。

少しだけ、ジャンボリーで班員がいなくなったりしたけれど、無事に家まで帰れたので良かったです。



オットセイ班

今回のキャンプは、ぼくにとって、人生で初めての 5 泊 6 日でした。とても長く感じたけど、楽しかったです！！暑かったり、めんどうだったり、眠れなかったり、つらいこともたくさんあったけど、ごはんがおいしくできたり、ジャンボリーで CP ラリーをやったり、みんなで営火をやったり、楽しかったです。

そして、今回の日本ジャンボリーで、たくさん覚えることや学ぶことができました。とくに覚えられたのは、手旗です。班長がていねいに教えてくれました。日本プログラムでは、あまり結果が出ませんでした。これからの生活で使っていきたいです。火起こしでは、杉の葉をたきつけに使って、5 分 59 秒で麻なわを切りました。その日の順位では、全国 4 位の記録でした。さらに最終日には、最優秀班を取ることができました！！次のキャンプでも、がんばりたいです。



オットセイ班

今回のキャンプは今までと比べものにならない位長いキャンプでしたが、その分、充実したキャンプでした。ご飯作りでは火番を任されることが多かったので、注意しながら調節しましたが、失敗が続いて周りから責められました。その時は少し腹が立ったけど、次のご飯作りの時は「こうしよう」などと思えました。

今回のキャンプで経験できたことは今後役に立つと感じ、体力的にも精神的にも成長できたキャンプでした。



オットセイ班

僕は 5 泊 6 日のキャンプをしました。僕の 1 番の思い出はキャンプサイトから御前山ダムを回って温泉へ歩いて行くことでした。理由は 1 番つかれたからです。ですが汗をかいてお湯につかる、その瞬間が 1 番最高でした。その温泉には露天風呂があり景色は見えませんが、直射日光を浴びるというのは、極楽でした。僕は風呂が嫌いですがすぐに出たがるのですが、今回は出たくありませんでした。帰りは御前山ダムを通らなかったので楽でした。僕はいい経験ができたなと思います。



オットセイ班

今回はジャンボリーを兼ねてキャンポリーを行った 5 泊 6 日のキャンプだった。5 泊のキャンプは僕らにとって初めてで、団にとっても団だけで 5 泊するのは初だった。そうなので大変だったが、色々と成長することができた。特に、毎日のグリーンバー会議で他の班長次長の反省などを聞いたり、その日の自分を振り返ったりしたことで、反省を次の日に活かすことが出来たのでより成長できた。

序盤での反省点は、班長として細かい指示を出せていなかったことや、自分の設営イメージや活動イメージを共有できていなかった事に関してだった。改善していった中盤では、僕や次長がやっている作業を他の班員に「やらせないといけない」と再確認した。終盤は細かく全体の指示を出せていたが、指示止まりになってしまい、一緒に教えながらやったりすることが出来ていなかったことが反省点だった。

◎ 各プロジェクトにおける反省点 ◎

ジャンボリープロジェクトである班旗立ては最初、分担できていても思うようにいかなかったが、他の班から技術や作戦を盗み改善したことで満足のいくタイムを出せた。火起こしでは、皆が神田くんの手本を活かそうとしたり、特徴を探していたことで 1 回目から唯一縄を破れたので嬉しく、2 回目も 3 班の内 1 番のタイムを維持できた。今回のキャンプを通して最も悔しい結果となった手旗。1 回目の挑戦（練習）から時間があつたのに、復習しといて、と指示止まりだったため 2 回目も上手く行かなかったのが良くなかった。グリーンバー会議でその意見を出したことによって神田くんに、僕と次長ができるなら指示止まりではなく一緒に練習したり確認するのが大切、と教えられその通りだと思った。それを早速行動に移してラストチャンスへみんな練習したが成功はしなかった。けれども反省をキャンプ中に知れ、行動に出せたのは良かったと感じた。

5 年に 1 度しか行われぬ団のキャンポリーの班長を任された僕らは、貴重な体験をすることができた。初

めてだった縦割り班は 1 日目では自分 1 人で残り全員をまとめようとしてしまったが、会議で出た反省点より 2 日目では残りのボーイなどにカブとビーバーとまとめるための指示を細かく出せたため、上手くいったと感じた。キャンポリーの優秀班にはなれなかったが縦割り班の難しさを知ることができた。普段は次長のスカウトも、縦割り班の班長になっていたのも、いい経験だったと思う。



僕らオットセイ班は結果、ジャンボリーの最優秀班に選ばれた。点検で言われた修正点を直ぐに補強や作成して、次の点検の際に「やるね」と言われた時は、次長と顔を合わせて喜んだ。他の班がやっていたり間に合っていないことも毎朝行えていたり、日本ジャンボリーの結果で最優秀班が取れたと思う。

もう 1 つ手旗と同じくらい悔しいことをあげるとすると、点検に毎朝少しずつ遅れてしまったということだ。時間厳守を身につけるための時間設定なのに、毎朝少しなら大丈夫だろうと気が緩んでいたと感じた。最終日近くは間に合った日もあってよかった。

1 番最後のプログラムである撤収では、5 日間の反省を活かして指示を出し、班員をよく見て動いたため、1 番早く報告をすることができたと思った。班員も大変だったと思うが皆頑張ってくれてとても成長できたと思う。これ程長いキャンプを団でやることはもうないだろうが、この経験を絶対に忘れず次に活かしたい。オットセイの次長である I くんは、とても手助けになったので来年のオットセイを引っ張ってくれるだろうと安心した。



オットセイ班

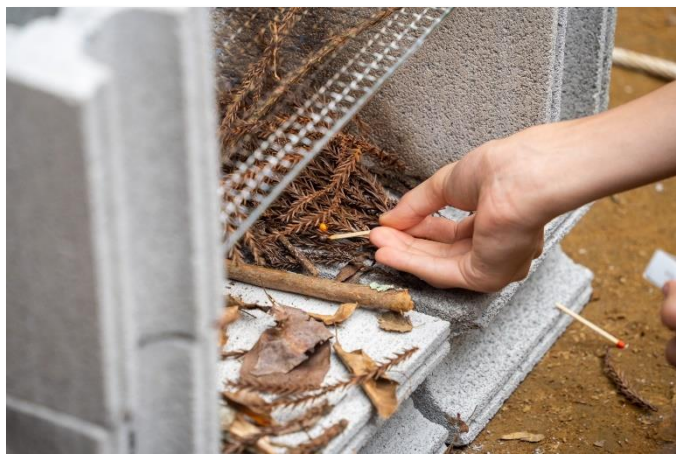
キャンポリーは途中参加でしたが、とても楽しかったです。その中でもとても楽しかったのがみんなと食べるバーベキューでした。バーベキューではお肉を 41 個、ぶどうを 31 個食べて、そうめん二杯という結果でした。とても美味しかったです。そして、テントでの一泊もとても楽しかったです。バスの中ではほとんど寝ていましたが静かなみんなの音がとても安心できて心地よかったです。

オットセイ班

キャンプでは火おこしが楽しかったです。少し難しかったので、練習したいと思いました。

手旗では、少し覚えられてとてもうれしかったです。少しでも覚えていると、自信ができました。

料理は、自然の火で作ると、美味しくない時もあれば美味しい時もあって、難しいながらも楽しかったです。



オットセイ班

今回は林間学校と予定が重なり途中参加でしたが、田舎のキャンプ場で、虫が少し嫌だったけど、無事にキャンプができて自信ができました。火おこしや班員との交流が特に思い出にのこりました。

来年のキャンプでは、後輩を指導できるようにこれから毎月の勉強会にも休まず参加し、早く一級を取れるよう、鍛錬します。日々の善行をして 5 団の名に恥じないスカウトになります。カッコいいベンチャーになります。リーダーありがとうございました。



カモメ班

このキャンプはとても長く感じましたが、とても充実した 4 日間だったと思います。特にキャンポリーでは、水鉄砲などでカブスカウトたちと交流できて楽しかったです。

中学のテニス部の合宿直後に参加したからか、何度か体調を崩してしまったので、次からは体調管理をしっかりしていきたいです。



カモメ班

今回は 5 泊 6 日のキャンプだったけれど、生活習慣を整えて、規則正しい生活を送れたので、良かったと思います。また、ジャンボリープログラムの 3 つもそれぞれ班で協力し、いい記録が出せたので嬉しかったです。特に班旗立てでは、いろいろな結び方を使って、3 分 33 秒という高記録を出せたので、良かったと思いました。また、薪拾いのコツをリーダーに教わって、なかなか太く、大きい、丈夫な薪を集めることができたので、今後のキャンプに生かしたいです。キャンポリーでは、しっかりとビーバーとカブの子の面倒を見て、沢山のことを次長として教えることができ、良い経験になりました。また、最後の徹営までリーダーや班長の指示通りに行動できたので、良かったと思いました。次のキャンプでも今回の経験を活かして頑張りたいです。

カモメ班

夏キャンプでは、1人で設営と撤収まで全部できたことが、嬉しかったです。なんとと言っても、僕は火おこしが一番楽しかったです。それから、すきま時間にカブスカウトたちと、虫取りをしたのが楽しかったです。飯も美味かった。

だけど、ボーイ隊は小学生の参加が少なかったのが、つまらなかったです。中学生達に「虫取りなんてして子供か？」と言われ、味方になってくれる小学生仲間も居ないし、悲しくて寂しくなりました。だけど、優しく見守ってくれる中学生もいたので、それが心の支えになりました。



カモメ班

5日間の中でときどき体調をくずしてしまい、皆を手伝えない場面が少なくなかったのが、次はそこに気がつけたいです。ジャンボリーはやはり手旗が難しかったです。キャンボリーはスタッツや宝探しなど、プログラムはうまく行ったと思います。

カモメ班は最初と最後で人数が違い、初日はいろいろ大変でしたが、最終的には皆で役割などがあり、うまく行ったと思います。



カモメ班

本テントの設営、ごはんをつくる時は大変でしたが、できた時はうれしくて、料理はおいしかったです。楽しかったことは「班旗たて」や「ナイトかくれんぼ」です。

みんなとの生活はそのときは大変でしたが、今となっては楽しい思い出です。時間への意識を持つことの大切さをすこし学びました。またボーイのキャンプに行きたいです。

カモメ班

今回のキャンプは、5泊6日という長い期間でなおかつコロナ感染予防対策もしながら行った。長い期間のことでいえば、とても疲労が溜まる時があって翌日疲れがとれていない顔をしていた様子だったのか、声をかけられたことがあった。コロナ感染予防対策のことで言えば、班員の1人がマスクをとっていることに気づかず、神田さんに注意させてしまった。班員をよく見れるような工夫を考えて、実際にやって次長に伝えていく必要があると思う。

プログラムに関しては、ジャンボリーの日本一選手権の班旗たてで、三つの班では下位だったが、タイムを縮めながら自分の考えがどれほどのものか確かめることができた。火おこしは、みんなの協力を得て3度目の正直で記録を残すことができた。手旗は、知識を蓄えることが必要と感じた。

終盤のキャンボリーでは、スタッツも宝探しもカブスカウトと一緒に楽しくできた。しかも、火の精霊から独特だったということで、(名前が思い出せないが)なんと賞とその景品をもらった。夜プログラムは、肝試しで迷った■■■■くんと途中で会って、河田さんのところまでは一緒に行っていた。驚かされたり、これといって怖いものなかった。むしろ、ただ夜道を歩いただけだった。ハイキングは、雨が降りそうだったので、中止になった。そのかわりにシャワーになって、すっきりリフレッシュができた。かくれんぼは、普通に楽しかった。予定にあったシャワーは、いろいろとあって行かなかった。

最後にこのキャンプを通して、自分に足りていないところや班員の嫌な一面を見る時もあったけれど、ボーイ隊のみんなとできてとても楽しかったし、面白いこともあった。

とても良いキャンプができた。





トナカイ班

僕はこの 5 泊 6 日のキャンプで思ったことがいくつかあります。

1 つ目は班長の偉大さです。僕は一泊二日の訓練キャンプのときに、班長がいなくて班員をまとめることができず、散々な目に逢いました。しかし夏キャンプ中は、班長が色々仕切ってくれたおかげで前と比べても楽になりました。でもやはり 5 泊もあるととても疲れました。

2 つ目は銭湯です。普通銭湯は疲れて汗をかきその汗や汚れ、疲れを落とすために行くことが多いと思います。ですが僕の行った銭湯は往復でなんと 15 キロもありせっかく汗を落としても結局汗がダラダラになってました。

3 つ目は世田谷 5 団のキャンポリーです。コロナ禍で皆とはしゃぐ機会がとても減ってしまいましたが、山族（山の家族）がキャンプファイヤーをしてくれたときは久しぶりにみんなではしゃぐことができとても楽しかったです。

みんなで協力し集団で生活するのはとても楽しかったです。今度のキャンポリーのときは僕はもうベンチャースカウトになり、ボーイの子たちの世話をする立場になります。そんな将来の後輩のために頑張ってみるよう頑張っていきたいです。



トナカイ班

ボーイスカウトに上進して初めての夏キャンプは、キャンプと修学旅行が重なり、かなりハードなものでした。キャンプが始まったときから、班のテントを立てたり、立ちかまどを作ったり、周りに落ちてる薪を集めたりと忙しかったです。終わったあとは配給された食材を自分たちで料理し、時間内で食べなければならず、楽しんでいる余裕はありませんでした。

途中で修学旅行に参加し、キャンプに戻るとき、また過酷な場所に戻るのかと気が重かったが、トナカイ班の人や他のみんなによく帰ってきたと温かく迎えてくれたときは、ちょっと嬉しかったです。班対抗の火おこしゲームはみんなで力をあわせ、麻紐を焼き切ることができてよかったです。帰りのバスは、やりきった感でいっぱいでした。

ハードだったけど、すべてのことをやりきることができてよかったです。家族に感謝です。



トナカイ班

今回の日本ジャンボリー、世田谷 5 団キャンポリーでは、様々なことができました。

ジャンボリーでは、初めの設営や徹営、ジャンボリー日本一プログラムなどで、班の人と協力でき、親睦も更に深まったので良かったです。

キャンポリーでは、ビーバーやカブなどの下の子達を、班長として他のボーイの班員に任せたりして、2 位を取れたので良かったです。

この 5 泊 6 日の長いキャンプの経験をこの先に活かしていこうと思います。また、次回の活動で、このキャンプの反省や良かった点を班の中で考えたいと思います。次回の活動も頑張ります。



トナカイ班

キャンプに行くのは最初は嫌だったけど、キャンポリーが始まってから楽しくなった。自分たちで作ったご飯があまり美味しく無かったので、また5年後のキャンポリーまでに練習したい。



オットセイ班

今回は僕にとって初めての5泊6日という長いキャンプでした。もちろん楽しかった事もあったし、辛かった事もありました。そんな中でもやり遂げることが出来たのは班員やリーダーの支えがあった事です。

キャンプの内容としては、日本ジャンボリーと団設立70周年記念キャンポリーが重なったものでした。そんな企画が盛り沢山の今回のキャンプで1番楽しかった事は、ナイトプログラムで行ったインディアンかくれんぼです。

初めてやる事だったので全然想像がつかなかったけど、普通のかくれんぼの何倍も楽しかったです。また、キャンポリーでのキャンプファイヤーも楽しかったです。学年や隊は違えど、楽しむ心は一緒なんだということに改めて実感することが出来ました。

辛かった事としては、雨の中建てた三脚信号塔です。軍手が泥まみれになるほど作業して作ったため、手は痛かったし前屈みになっていたため腰も痛かったです。でも苦労して作った信号塔が立った時、辛かったけども達成感があり、一生懸命作業した甲斐があったなと思いました。

コロナ禍で行動が制限される中、このキャンプを乗り越えた班員の皆は、確実に体力面でもメンタル面でも強くなるし、技術力や知識量も上がったと思います。この経験は自分の日常生活やスカウト活動の糧になると思いました。次のキャンポリーの時僕は大学2年生のため運営側になります。今度は皆を楽しませることができるよう今後励んでいきたいです。



トナカイ班

僕が5泊6日のキャンプで、大きく印象に残ったことは、点検です。1日目や2日目は、時間には間に合っても、テントの乾燥ができてなく、食事でも食べられていなかったりしていました。

ですが、後半になるにつれて、全員の動きが良くなり、テントの乾燥をして、食事でも配給されてすぐに、料理が出来る様になりました。あっという間で、とても楽しかったです。



【18NSJ 参加報告@JR 東日本大崎運輸区】

世田谷第 5 団 OB 清水 優一

皆さまご無沙汰しております。世田谷第 5 団 OB の清水優一です。CS 隊副長の清水恵子の息子と言ったほうが分かりやすいかもしれませんが（笑）

私は 2002 年秋の CS 隊から、2016 年春の RS 隊まで 13 年半活動をしていました。当時の花俣団委員長、土田 CS 隊長、飯田 BS 隊長、鷲山 VS 隊長には大変お世話になりました。

社会人として JR 東日本で働くようになってからはなかなか土日の休みが取れず、すっかりボーイスカウトとは離れてしまい寂しく感じておりました。

今現在は車掌として山手線に乗務し、ドアの開閉やアナウンス等をしています。三指ではなく、四指の敬礼を毎日しています（笑）



そんな中、先日の 18NSJ（日本スカウトジャンボリー）において JR 東日本見学会が生まれ、私も社員として携わることができましたので、ご報告させていただきます。

この見学会は 18NSJ のプログラムのひとつとして設定されたもので、当社の社会的役割を知ってもらうことや参加スカウト自身のキャリアビジョンの形成に役立ててもらうことを目的としています。とは言え難しいことをやるのではなく、楽しくわかりやすく伝えられるよう工夫を凝らしました。

まずはボーイスカウトお約束のアイスブレイキングゲームから。和やかな雰囲気になったところで、クイズ形式で仕事の説明を。その後お待ちかねの乗務員シミュレーターや自動起床装置を体験してもらいました。特に、運転士シミュレーターはなかなかうまく止められず（決められた停止位置±35cm に止めないとドアが開けられない！）、みんなでわいわい言いながらやってもらいました。

最後にボーイスカウト経験談を私から少々。

自分自身も 14NJ と 15NJ に参加して、とても楽しかったこと。

ジャンボリーをきっかけに地区の友達ができ、もっとスカウト活動に力を入れたこと。

スカウト活動を通じてたくさんの人の役に立つ仕事につきたいと考えるようになり、この仕事を選んだこと。

今こうして仕事でボーイスカウトに関わることができ、とても嬉しく思っていること。

これらをメッセージとして伝えました。

参加したスカウトからは、ジャンボリーに来たのに会社見学なんてと最初は思っていたが、楽しかったし来てよかったといった感想があがっていました。



約 13 年間、私を育ててくれたボーイスカウトに対して何も恩返しができず申し訳なく感じていましたが、まさかこのような形で貢献できる日が来るとは思ってもいませんでした。

私にとってもジャンボリーの思い出がまたひとつ増えましたし、ボーイスカウトって楽しい！ということを思い出させられました。

今後、世田谷第 5 団にもなにかお手伝いが出来ればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

2022年8月6日（土）～7日（日）

【発団 70 周年記念キャンポリー】

柴沼 篤弘

私は 5 泊 6 日のキャンプを通じて、実に多くのことを体験できる機会に恵まれました。また、キャンポリーの特性上、普段ならあまり会えないような後輩スカウトに会い、活動することもできました。さらにベンチャースカウトとして、企画に微力ながら携わることもでき、非常に良い経験を積むことができたのです。今後このような活動が行われることになるのは、数年先になるとは思います。その時もスカウトとして活動をしたいと思います。



中澤 道

70周年という節目のキャンポリーに企画や運営として関わって、とても有意義なものになりました。磯田くんをはじめ、先輩方や大人の皆さんに任せっきりにならないようにベンチャー隊の僕達も率先して仕事を探し、協力できたと感じています。

ビーバーの頃に参加したキャンポリーの時は、ベンチャーやローバーの先輩方がとても大きく、頼もしく見えた思い出があります。あれから10年経った今回のキャンポリーでは、ビーバー、カブの子たちにしっかり頼もしい姿を見せることができました！！

運営する側の大変さを知って、よりボーイスカウト活動が楽しくなりましたし、下の子達にもこの楽しさを知ってもらいたいと改めて感じました。70周年記念キャンポリー大成功！と思います！5団としてもっともっと盛り上げられるよう、自分も頑張っていきたいです！



村山 太河

私は今回の団キャンポリーに8月6日から2泊3日で参加しました。新型コロナウイルスが流行してから、ずっとキャンプに行けていなかったのが、これが私にとってベンチャー隊入隊後初めてのキャンプでした。期間が空いていたこともあって、BSの頃を思い出しながらでしたが、キャンプファイヤーやキャンプならではの食事などを通して、この3日間でキャンプの楽しさを再確認できました。

この団キャンポリーは、私がスカウトを楽しませる側として、企画する側として参加した、初めてのキャンプでもありました。ひとつの企画を作るだけでも想像以上に大変で、準備に1ヶ月くらいかかりました。当日も、スカウトたちに説明したり、集合させたり、リーダーや他のスカウトとの協力などもしなければならず、とても多忙で疲れしました。それでも、自分が考えた企画をスカウトたちが楽しんでくれているところを見ると、頑張っ準備してよかったなと思いました。これを毎回キャンプの度にリーダーたちはやってくれていたことを考えると、私たちがスカウト活動を行えているのはリーダーや他の方々の協力あってのものだと、改めて気付かされました。だから私もこれからの活動参加にあたって、感謝の気持ちを忘れずにいようと思います。



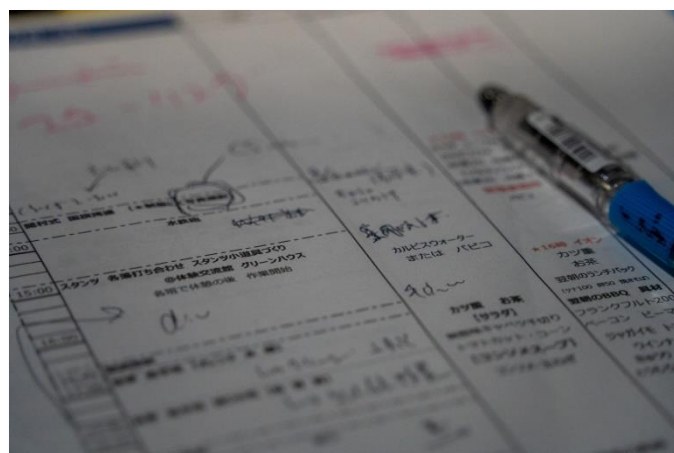
2022年8月6日（土）～7日（日）

【精神的代謝】

磯田 悠生

今回、キャンポリープログラムの計画、管理、実行を担当しました RS 隊の磯田悠生です。コロナ禍と言われる昨今、私にとって、本キャンポリーは最初にして最大のローバー活動となりました。

上級スカウトにもなると、当然、実生活とスカウト活動との関わりはより複雑さを増してきます。所属隊から得られる人的協力が充分でない中、団が 70 周年を迎え、最上級スカウトとして何をすべきか、何をしなければならないのか、私なりに考え抜き、結論を出し、最終的に形にしきることができた点、思い返せば重要な経験ができたと思います。



今回、何より私の励みになっていたのは、キャンポリーにかかわる皆さんの“姿勢”そのものでした。リーダー・保護者と、身分問わず寄ってたかって議論を重ね、たった24時間のイベントを成功に導こうとする姿、準備・活動のフォローを献身的に突き詰めていく姿、そして与えられたアクティビティを全力でこなしてくれるスカウトの姿、どれも「素晴らしい」の一言で片づけられるものではなかったかと思います。個のもつ熱意と愛こそ、我が団の宝であり、いまや世田谷で最大の規模を誇るまでになったその所以を垣間見ることができたと同時に、ビーバーの頃から温め続けてきた自分の籍を誇らしく思うことができました。



もとより、スカウト活動はボランティアなので、その意義、目的、成果を簡単に評価することはできないと思います。だからこそ、自発的に、独創性を持った価値づけを重ね、自身のモチベーションを研ぎ澄ましていくことが重要なのだと、今回特に感じました。スカウトも、リーダーもみな、活動に固有のモチベーションを持ち寄る。もしくは新しいモチベーションを見つけて持ち帰ることもあると思います。そんな繰り返しが、一度誓いを立てたもの、すなわちスカウトとしての人生をより豊かにしてくれる精神的代謝であり、おきてを実行するための動機となり得るのではないのでしょうか。

最後になりますが、私のキャンポリー活動を支えてくださった皆様、特に企画にかかわってくださったリーダーの方、RS、VSスカウト、ありがとうございました。そして、スカウトとしてここまで活動してきた自分自身を誇りとし、その運命に対しても感謝したいと思います。



